

利用案内

■ 開園時間

公園の開園時間		
	西門（日の出～日没）	東門
4月～5月	5:30～18:30	7:00～18:00
6月～8月	5:30～19:00	
9月	5:30～18:30	
10月	6:00～17:30	
11月	6:30～17:00	
12月～1月	7:00～17:00	8:30～17:00
2月	7:00～17:30	
3月	6:30～18:00	

※休園日 12月29日～12月31日

■ 入園料

	普通	団体
大人（16歳以上）	200円	140円
小人（6歳以上16歳未満）	100円	70円

※団体料金が適用されるのは20人以上の団体で、責任者が引率するものに限る。
※6歳未満の者は、無料とする。

■ 定期入園券（購入日から1年間有効）

	料 金
大人（16歳以上）	1,250円
小人（6歳以上16歳未満）	620円

※東西の料金所で支払い後、管理事務所が発行します。

■ 総面積 (79,587.44㎡)

堀	庭園	駐車場
22,608.00㎡	55,602.79㎡	1,376.65㎡

※玉藻公園専用駐車場57台（東入口）
玉藻公園専用バス駐車場（最大2台） 要予約 087-851-1521

■ 年間行事（予定）

行事	期間
年始無料開放	1月1日～1月3日
春の植木市	3月上旬～4月上旬
桜見物夜間無料開放	3月下旬～4月上旬
一般開放記念無料開放	5月5日
水任流游泳祭※1	6月第一日曜日
菊花展	10月中旬～11月中旬

松平家の泳法

高松藩祖松平頼重は高松城に入城すると「讃岐の国は海辺の国なれば水練は武道の一挺たるべし」と、藩士の今泉八郎左衛門に命じ、御船蔵西の堀端（現JR高松駅構内）にて藩士に水練の指導をさせました。頼重自らも、入府の年の6月に城内の内堀で泳がれたとの記録もあります。

高松藩の水術は水戸藩の水術である水府流を源流とし、「高松御当所流」と呼ばれていましたが、やがて「水任流」が正式名称とされ、昭和53年4月に松平家第13代松平頼明氏を会長とした水任流保存会が結成され、毎年6月第1日曜日に英公（初代頼重の諡）を偲んで追悼游泳祭を行っています。また、松平頼明氏が水任流保存会を結成して日本泳法の保存に努め、水任流は昭和54年高松市無形文化財第1号に指定されたことの偉業を称え、二の丸北側（園外歩）に水任流保存会初代会長松平頼明氏顕彰碑が建てられています。

史跡高松城跡

全国のお城も、立ち上げが！

いざ参城！

YouTubeにて絶賛配信中！

最新情報は公式サイト、公式Twitterをチェック！

公式サイト <http://www.takamatsujyo.com>

Twitter <https://twitter.com/takamatsujyo>

問い合わせ

〒760-0030 香川県高松市玉藻町2番1号

TEL:087-851-1521 FAX:087-823-6390

<http://www.takamatsujyo.com/>

玉藻公園管理事務所

公式WEBサイト

史跡高松城跡 玉藻公園 指定管理者：香川県造園事業協同組合 主管課：高松市創造都市推進局文化財課



史跡高松城跡（玉藻公園）の沿革

高松城は、またの名を玉藻城と呼ばれていますが、その由来は万葉集での柿本人麿が讃岐の国の枕言葉に「玉藻よし」と詠んだことに因んで、このあたりの海が玉藻の浦と呼ばれていたことによるといわれています。

この城は、天正15年（1587年）に、豊臣秀吉から讃岐一國を与えられた生駒親正が、天正16年から香東郡野原庄（麓原）と呼ばれていた現在地を高松と改め築城に着手した平城（水城）です。縄張り（設計）は、当時築城の名手であった黒田孝高（如水）とも細川忠興ともいわれています。瀬戸内の海水を外堀、中堀、内堀に引き込んだこの城は、日本の三大水城のひとつといわれています。城には、本丸を中心に時計廻りの方向に二の丸、三の丸、桜の馬場、西の丸が配され、三重の堀とともに堅固な構えとなっていました。

生駒氏の治世は4代54年間続きましたが、寛永17年（1640年）に生駒騒動といわれる御家騒動により、讃岐一國を召し上げられ、出羽国（秋田県）矢島1万石に移されました。このあと、寛永19年（1642年）に当時常陸国（茨城県）下館藩主だった松平頼重が東讃岐12万石の領主として入城しました。頼重は徳川家康の孫で、徳川光圀（水戸黄門）の兄にあたります。将軍家と近親の関係にあった頼重は中国・四国の監察役を命じられていたといわれています。頼重以降、松平氏の治世は11代228年間にわたり、高松は松平氏の城下町として栄えました。

お城は、明治3年に廃城府を提出し許可され、一時、政府の所管となりましたが、明治23年（1890年）に城跡の一部が松平家に払い下げになり、昭和20年には松平家から公益財団法人松平公益会に継承され、さらに昭和29年に高松市が譲り受けて、高松市立玉藻公園として昭和30年5月5日から一般に開放しました。現在の玉藻公園の面積は79,587㎡（約2万4千坪）で、往時の城域66万㎡（約20万坪）と比べると8分の1ほどの広さです。城跡には重要文化財の月見橋、水手御門、渡櫓や長櫓とともに石垣や堀などが残り、昭和30年3月2日に国の史跡に指定されています。また、高松城は彦根城と姉妹城縁組をしていますが、これは第11代藩主頼聰の奥方として、彦根藩主であった井伊直弼の次女千代姫が嫁入している縁から、昭和41年に結ばれたものです。

歴代城主一覧表

氏名	世代	城主	襲封	治世	寿	墓所
生駒四代	初代	親正（ちかまさ）	天正15年 8月（1587年）	14年	78歳	弘善寺（こうぜんじ）（市内錦町）
	2代	一正（かずまさ）	慶長 6年 5月（1601年）	8年	56歳	法泉寺（ほうせんじ）（市内番町）
	3代	正俊（まさとし）	慶長15年 3月（1610年）	12年	36歳	法泉寺（ほうせんじ）（市内番町）
	4代	高俊（たかし）	元和 7年 6月（1621年）	19年	48歳	竜源寺（りゅうぜんじ）（秋田県由利市吉市）
松平十一代	初代	頼重（よりしげ）	寛永19年 2月（1642年）	32年	74歳	法然寺（ほうねんじ）（市内仏生山町）
	2代	頼常（よりつね）	延享元年 2月（1673年）	32年	53歳	雲芝寺（れいしじ）（さぬき市）
	3代	頼豊（よりとよ）	宝永元年 2月（1704年）	32年	56歳	法然寺（ほうねんじ）（市内仏生山町）
	4代	頼恒（よりたけ）	享保20年12月（1735年）	5年	20歳	法然寺（ほうねんじ）（市内仏生山町）
	5代	頼恭（よりたか）	元文 4年 9月（1739年）	33年	61歳	法然寺（ほうねんじ）（市内仏生山町）
	6代	頼寛（よりさね）	明和 8年 8月（1771年）	10年	38歳	法然寺（ほうねんじ）（市内仏生山町）
	7代	頼起（よりおき）	安永 9年 4月（1780年）	13年	46歳	法然寺（ほうねんじ）（市内仏生山町）
	8代	頼徳（よりのり）	寛政 4年 9月（1792年）	30年	55歳	法然寺（ほうねんじ）（市内仏生山町）
	9代	頼恕（よりのむ）	文政 4年 5月（1821年）	22年	45歳	雲芝寺（れいしじ）（さぬき市）
	10代	頼胤（よりたけ）	天保13年 5月（1842年）	20年	68歳	伝通院（でんつういん）（東京都）
	11代	頼聰（よとし）	文久元年 7月（1861年）	11年	70歳	法然寺（ほうねんじ）（市内仏生山町）

水戸黄門と松平頼重

テレビドラマなどで有名な水戸黄門（徳川光圀）は初代藩主松平頼重の同僚の弟にあたります。松平頼重は、徳川家康第11男の水戸藩祖徳川頼房の長男として生まれながら、運命のいたづらから、次男である光圀が水戸徳川家を継ぐことになりました。光圀自身も次男である自分が兄を差し置いて水戸藩主となったことを悔やんで、自分の跡取りに頼重の子（嫡孫）を迎えて水戸藩主としました。一方、頼重も光圀の子（頼常）を高松藩主としました。以後、明治維新になるまで親子縁組を繰り返しました。